

令和3年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
大学院部会	○	○	○	○	○					
○今年度の取組状況 1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。社会福祉学研究科では、指導体制の充実を図る取り組みを継続する。保健科学研究科では、教員個々の研究指導内容が具体的にわかるよう、ホームページの見直しを行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、一般公開される教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、コロナ禍の現状を踏まえ、最善の開催形態での実施を検討する。 社会福祉学研究科では、減少していた社会福祉専門教員を計画的に昇格させ、院生のニーズに対応できるよう、研究指導体制の充実を図った。保健科学研究科では、教員個々の研究指導内容が具体的にわかるよう、ホームページの見直しを行った。具体的には、YouTube 動画による研究紹介へのリンクを貼り、教員の顔が分かるようにした。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす対策を継続し実施中である。 「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、開催が企画された時期にコロナ感染が再拡大したため、社会的な状況に合わせて延期中である。 2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続する。保健科学研究科では、生命医科学部からの入学に加えて現場で働いている臨床検査技師の入学を促すため、臨床検査関連の学会誌などへの広報を検討する。医療薬学研究科では、時代のニーズに対応した大学院規則の検証を行い、定期的な通学が困難な地域の医療人が入学しやすい環境を整える。 研究科ごとに対応を検討した。定員充足率は、社会福祉学研究科 修士課程 33%、連合社会福祉学研究科 博士（後期）課程 100%、保健科学研究科 博士（前期）課程 93%、保健科学研究科 博士（後期）課程 1%、医療薬学研究科 博士課程は 19%となっている。 社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリング時に広報活動を継続して行った。博士（後期）課程は定員を充足し、定員を見直した修士課程（7名）は6名の入学であった。保健科学研究科では、コロナの影響で入学をためらうケースもあるが、現状では夏期、冬期スクーリングをWEBで行っており他大学院よりも有利なので、入学者が増えるよう広報中である。医療薬学研究科では、夜間に、あるいは定期的な通学が困難な地域の医療人がオンラインで、講義を受講できる体制であることなどをアピールしながら、卒業生を含めた地域の医療人を対象に広報活動を継続的に行ってきたが、入学者を確保できていない（2月現在、次年度の入学希望者あり）。										

3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用した取り組みを継続する。保健科学研究科では、修士取得者との情報交換をさらに推し進め、研究の充実と後輩の大学院進学を試みる。医療薬学研究科では、医療人の実務の遂行において大学院での研究活動がいかに有効であるかを継続してアピールする。

社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用して、福祉などの現場と連携強化を図る取り組みを継続して行っている。保健科学研究科では、修士 200 名計画が進行中で、すでに 177 名が臨床現場で活躍しており、情報交換もなされて連携強化が行われつつある。医療薬学研究科では、院生の多くが現場に出向いて実務経験を積んでおり、研究科としても奨励している。継続して実施中である。

○来年度の計画案

1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。社会福祉学研究科では、指導体制の充実を図る取り組みを継続する。保健科学研究科では、引き続き教員個々の研究指導内容が具体的にわかるよう動画の見直しを行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、一般公開される教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」は、コロナ禍の現状を踏まえ、オンラインも含めた最善の開催形態での実施を検討する。また、薬学科の新たな取り組みである「薬学科リトリート」に本研究科も参加し、研究科教員の研究交流を促す。
2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続する。保健科学研究科では、とくに臨床検査技師と臨床工学技士の入学を促すため、卒業生も対象とした広報活動を行う。医療薬学研究科では、地域薬剤師会の会員に対する広報や HP での発信内容をニーズに応じて見直し、定期的な通学が困難な地域の医療人に対するアピールを行う。
3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用した取り組みを継続する。保健科学研究科では、修士取得者を含む医療現場との共同研究を推進することにより、本大学院の存在意義を多くの臨床現場従事者に理解いただくようにする。医療薬学研究科では、医療人の実務の遂行において大学院での研究活動がいかに有効であるかを継続してアピールする。